

# 心の故郷

(大正十一年桜星会歌)

## 一

心の故郷よ石狩の  
夢香かなる草の野邊  
花は煙りて影仄に  
生命の光榮と喜悅を  
恍惚につゝむ憧憬の  
薔薇色の露慕はしや

## 二

夏の園生の逍遙や  
野花の息吹に風の香に  
燦めく光りさゆらぎつ  
樺の緑のほの薫る  
木梢に歌ふ若鳥の  
朗にひゞく曙の聲

## 三

楡の林の星の灯よ  
あはれ高鳴る靈と智の  
諧調豊けき魂の琴  
黄金のさやき銀のいろ  
郷愁あはき秋の夜の  
沈黙にふるふ星の灯よ

## 四

白銀の宵闇深く  
氷柱に映ゆる紅の  
神秘たゞよふ火明りよ  
熱き情想の律動きて  
明と暗との幻影に  
聖き黙禱の魂ゆるる